

(別記様式)

令和4年度 京都府立中丹支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階・実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	本年度学校経営の重点	本年度の成果と課題
学校教育目標 ～いどむ つながる かがやく～ ・主体的に学ぶことも含め、未来に向かって挑戦してほしい ・いろいろな人とともに歩んでほしい ・幸福な生き方をつくりだすことで自分らしい輝きを増してほしい このような児童生徒を育てるために、小・中・高の系統性を持たせた指導にあたる。 小学部では基礎となる力を身に付ける「基礎・意欲」を大切に、中学部では身に付けた力を広げる、深める「発展・可能性」の段階へ 高等部では自立や社会参加に必要な力へと高める「統合・個性」へと発展させていく。	引き続き感染防止対策を徹底するとともに、教職員一人一人が小さなことも見逃さない危機管理意識をもって学校・学部・学級運営にあたる。 ○学校経営 1 働き方改革の推進 超勤削減と、教職員の働きやすい学校環境を構築する。 2 学校運営協議会の活用 学校運営協議会を効果的に活用し、地域とともに歩む学校を目指す。 ○教育活動 1 12年間の系統性のある教育課程の編成 障害特性に応じた指導の充実と、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を目指す。 2 地域との連携 地域の関係機関との連携を強化し、体験的な学習や職場体験・実習の機会拡大等を図り、児童生徒の力や可能性を積極的に地域に発信する。 3 ICT機器の有効活用 一人一人の特性に応じてICT機器を効果的に活用し、実生活で生きる学習指導を充実する。	○児童生徒一人一人の小さな体調変化も見逃すことなく、対応することで、新型コロナウイルス感染症を大きく広げることなく、学校運営を行うことができた。 ○危機管理意識の面では、ヒヤリハット事象が何件かあり、さらなる意識の向上が必要である。 学校経営 1 働き方改革推進会議が中心となり、様々な分掌と連携しながら施策(育児(自)の日を月2回、回議方法の整理、会議の精選)を実施し、超過勤務は減少した。今後は「働きがいのある職場」にしていくことが求められる。 2 学校運営協議会で委員より様々な意見をいただき、地域とともに歩むためのヒントを得ることができた。 教育活動 1 研究部を中心に研究活動を進め、他学部の実践も聞くことで12年間の系統性ある教育課程の検討ができた。今後、具現化していかなければならない。 2 コロナ禍の中、制約もあったが高等部においては職場体験、実習の機会を多く設けることができ、生徒の進路選択に役立った。中学部においても地域学習を実施することができた。 3 学校生活の様々な場面で、タブレット端末を使った実践を行うことができた。

令和4年度 京都府立中丹支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階・小学部)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
小学部	小中高系統性のある教育を実現するために小学部段階で付けたい力や大切にしていることを明確にし、学習指導要領を踏まえ、児童一人一人の「やってみたい」という意欲を引き出すための教育活動を進める。	地域の自然や資源に触れたり、地域の学校との交流及び共同学習を進めたりするなど、体験的な学習に取り組んで地域とのつながりを深める。	C	B		・野菜の栽培活動など体験的に学習することができた。また交流及び共同学習も2回実施して、遷喬小学校の4年生との交流ができた。しかし、交流はオンラインであり、十分な交流ができたとは言えない。 ・日々の授業の中で積極的にICT機器を活用することができた。児童も機器の扱いに慣れ、活用して学習することが日常になってきている。 ・「挨拶をすること」「自分のことができるようになること」など日々の学習活動の中で取り組んでいる。また、校外学習でも施設の利用法を学んだり買い物をしたりしてきた。指導者側の「キャリア教育」の視点や意義を深めていくことでさらに効果的になる。
		ICT 機器の効果的な活用ができるように、最新情報やお互いの実践を交流するなど、その研究・研修を更に進める。	A			
		「小学部段階からのキャリア教育」という視点を踏まえて各教科等を合わせた指導や自立活動の指導を更に充実させ、授業に対する児童の意欲を高める指導を進める。	B			
	危機管理意識の更なる向上と、児童の健康や安心・安全の確保に努める。	新型コロナウイルス感染症対策として、「新しい生活様式」を指導し、その定着を図る。	A	A	B	・担任が高い意識をもってマスクの着用や換気などを行うことができた。給食も感染予防対策を十分に実施して、校内が要因となる感染症の広がりがなかった。 ・医療や家庭などと連携し、アレルギーやてんかん等についての情報共有や共通理解も深まった。給食をこぼした時にはすばやく対象学級に報告できた。 ・児童のことについて気になることは積極的に家庭連絡を取るようにして、連携を図った。学校への信頼にもつながっている。
		アレルギーのある児童やてんかん等のある児童への対応について教職員間で共通理解を進める。	A			
		報告・連絡・相談を忘れず行う。タイミングが大事なことは逃さずに対応する。	B			
	指導力及び専門性の向上に努める。また、教職員の服務規律の確立と健康保持に努める。	研究授業を積極的に実施し、事後研や授業研究会、(オンライン等による)研究会参加を促し、さらなる専門性の向上と授業改善を図る。	B	B		・ICTを活用して主体的・対話的で深い学びを目指した授業研究を行った。研究で得た知見を日々の授業の中で実践していく意識も高まった。 ・小学部全体で「挨拶」に対する意識を高める確認をして、一丸となって児童に挨拶を促すことができた。まずは教員が見本となれるように取組を進めた。 ・勤務時間数については大幅に縮減することができた。一方で時間を減らせばよいという意識から脱却して、多忙感の縮減を目指していく必要がある。
		社会的規範やルール、マナーを守り、児童の手本となるとともに、服務規律の確立に努める。	B			
		ワークライフバランスや、総実勤務時間数を減らすことを意識しながら、計画的に業務に取り掛かる。	B			

令和4年度 京都府立中丹支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(実施段階・中学部)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
中学部	学習指導要領と学部間の系統性を踏まえた意図と根拠のある指導計画をもとに、多様な集団の中で力を発揮できるようにする教育活動を進める。	合同学習や学年別の学習、他校との交流及び共同学習や地域資源を活用した学習などを充実させ、関わる人や学習の場を広げる多様な学習機会を設定する。	B	B	・学年別の校外学習や地域での体験的な学習、他校との交流及び共同学習など多様な学習機会を設定したが、コロナ禍のため限定的であった。 ・タブレット端末の活用は進んできているが、ねらいを明確にしたうえで、さらに効果的な使用方法を探り、学習指導の工夫改善を一層進めていく必要がある。 ・自立活動部と連携して障害特性に応じた支援を行うとともに、作業学習においては、地域とつながる取組を導入するなど、働くことを通して自己有用感を高める授業づくりを行った。
		ICT機器の活用や体験的な学習を効果的に取り入れるなどの指導方法を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開する。	B		
		自立活動部と連携した障害特性に応じた指導や、キャリア教育の視点を踏まえた生活単元学習や作業学習を充実させ、社会参加に必要な力を伸ばすとともに高等部での進路指導につなぐ。	B		
	一人一人が危機管理意識を高めるとともに、チームとしての指導体制の確立を図り、生徒の安心安全の確保と教育活動の充実を図る。	危機を未然に防止する視点をもつことや、学級やグループ、学部で共通理解をして指導に当たることを大切にする。	B	B	・事故を未然に防止するように呼びかけをしたり、情報を共有したりしたこと、危機意識を高めることができた。 ・必要に応じて教務部長や他学級の担任が指導支援に入るなど、学部全体をチームとした指導体制を敷くことができた。 ・日常的な保護者との情報共有を大切にし、学校での様子を伝えたり家庭の状況を把握したりすることで家庭と良好な関係を築くとともに、信頼関係を深めることができた。 ・学習や行事等の実施について、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて柔軟に対応することができた。
		生徒全員を全ての指導者で指導する意識をもって効果的な指導体制を工夫するとともに、自立活動部や関係機関との連携を積極的に進める。	B		
		日常的に保護者との連携を丁寧に行うとともに、状況に応じた迅速で的確な対応をして、保護者との信頼関係を深める。	A		
		感染防止対策など、必要な対策を学部として徹底するとともに、状況に応じた工夫・改善に前向きに対応する。	B		
	特別支援学校の教職員としての専門性の向上を図るとともに、服務規律の徹底に努める。	研究活動への主体的な関わりや研修会等への積極的な参加を通して、特別支援教育に関する専門性の向上に努める。	B	B	・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを進める中で、研究授業について協議をしたり、自分の分自身の授業の生徒の姿に着目して授業改善をしたりし、主体的に研究に関わり、専門性の向上に努めることができた。 ・研修時間や会議運営の工夫、退勤時間を意識した働き方によって超過勤務の縮減を進めることができた。
		働き方改革を推進する意識をもって業務を遂行するとともに、社会的規範を守って生徒の手本となる立ち居振る舞いをする。	B		

令和4年度 学校経営計画 高等部分（年度末）

	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
高等部	地域社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしく幸せな生き方を実現していけるように、自立と社会参加に向けた「生きる力」を育む教育活動を進める。	生徒が積極的に地域に貢献したり、願いや思いを発信したりしていくことができるように、地域の人的・物的資源を効果的に活用し、地域を教育の場とする意識を高める。	A	A	・新たな場所での販売会や地域施設の清掃等、地域資源を活用した教育活動が実施できた。また、校内外の活動をHPや報道機関等をととして積極的に発信することができた。 ・昨年度に比べ日常的にiPadを活用している学級が増えた。一方で、発達段階に応じた「情報活用能力」の育成という視点は今後の課題である。 ・3年生に施設入所の生徒が多数いたが、関係機関と密に連携をしながら、希望する進路実現ができた。
		各教科等の特質に応じて授業の目的を達成させるために積極的にICTを活用し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めるとともに、すべての学習の基盤となる「情報活用能力」の育成に励む。	B		
		職場実習の機会拡大、職業教育の推進など、生徒一人一人のキャリア発達に応じた就労支援を適切に行い、希望する進路の実現を目指す。	A		
	一人一人が危機管理意識を高め、生徒の健康や安心安全の確保に努める。	感染防止対策を徹底するとともに、状況に応じて工夫しながら教育活動を進める。	A	B	・その時々感染状況を見ながら、工夫して教育活動を進めることができた。 ・情報モラル教室や非行防止教室等、外部機関と連携して未然の指導ができた反面、個別のケースでは、もう少し丁寧に指導すべき事象もあった。起こった事象については、生徒指導部を中心にチームで対応することができた。 ・総合的な探究の時間等で他学級の生徒と関わる機会は多かったが、全員で指導するまでの意識にはなっていない。自活部だけでなくOTやPT等の専門職と定期的に連携しながら指導することができた。
		未然防止の指導を行うとともに事象が発生した場合は、報告・連絡を迅速に行い、担任だけが抱え込むことのないようにチームで対応する。	B		
		全員の生徒を全ての指導者で指導する意識をもつとともに自立活動部や関係機関との連携を深める。	B		
	人権意識やコンプライアンス意識の向上と徹底を図り、働きやすい環境作りに努める。	教職員の人権意識の高揚及び人権教育に関する実践力・指導力の向上を図り、多様性を認め合い、一人一人を大切に教育を行う。	A	A	・人権研修や学部会、学部通信をととして、教職員の人権意識の高揚やコンプライアンス意識の醸成を図ることができた。 ・昨年度から大幅に時間外勤務時間が減った。研修時間をとろうとする意識は向上したが、学級間で差があるという課題がある。
		学部会等でコンプライアンスハンドブックを活用した研修等を定期的に行い、コンプライアンス意識の向上を図る。	A		
		働きやすい環境作りに向けて、学部全員で創意工夫をして働き方改革を推進し、教員の心身の健康を守るとともに、教材研究や自己研鑽ができる時間を確保し、授業力の向上を図る。	A		

学校運営協議会 による評価	・保護者アンケートの回収率を上げる必要がある。 ・日々の教育活動中でのキャリア教育とはどのようなものかを考えていく。 ・現時点で、地域と協働して具体的に何かに取り組んでいくことは難しい。 ・児童生徒が自信と誇りをもって生活するため、また地域の障害者理解を広げるためにも、作品展等において氏名を掲示したい。
次年度に 向けた改善の 方向性	・保護者アンケートの回収率を上げる方策を検討するとともに、児童生徒へのアンケート実施も検討する。 ・部活動等の支援者、指導者については、地域資源の活用として保護者からも募集することも検討する。 ・高等部進路にかかわって、課題が多いケースでは学校から情報提供する。